

臨床検査技師の病棟常駐化についての取り組み

◎佐藤 里美¹⁾、熊谷 公代¹⁾、二ツ森 清美¹⁾、細川 裕史¹⁾、寺裏 寛之²⁾、樽本 高壽³⁾
岩手県立千厩病院 臨床検査技術科¹⁾、岩手県立千厩病院 元臨床検査科長²⁾、岩手県立千厩病院 臨床検査科長³⁾

【はじめに】

超高齢化社会による 2025 年問題、AI（人工知能）による 2045 年問題などと言われ、今後の臨床検査技師を取り巻く環境は大きく変化してきている。それに伴い、臨床検査技師も変化に対応すべく、新たな領域として病棟業務や地域医療への進出が広がりつつある。当院では平成 30 年 6 月より、病棟看護師との共同業務という形で、検査技師による病棟常駐業務を開始した。今回、病棟業務開始に至る経緯と開始後の実際の業務内容、状況について報告する。

【経緯】

病棟常駐業務を開始するにあたり、試行前に院内の医師・看護師を対象とした、「病棟における検査に関する業務実態のアンケート」を実施した。その集計データを基に、検査技師が病棟で実施するニーズがある業務を把握し、病棟で実地検証を行なった。その後、検査科と看護科での協議を行い、初めに病棟への輸血製剤搬送を開始した。その後、さらに協議を重ね、検査技師 1 名が全病棟（3～5 病棟）を対象として、1 日 4 時間（日勤帯のみ）病棟業務を行なうこととなった。これらの取り組み全てが、その都度、病院の方針決定に基づいて行われたものであった。

【業務内容】

現在病棟において実施している主な業務内容としては、①自己血糖測定器による昼食前血糖測定（機器管理）②採血 ③血液培養介助 ④心電図（病棟心電計管理）⑤血液製剤搬送 ⑥検査についての説明（問い合わせ対応含む）⑦検体搬送 ⑧臨床検査に関わる材料・消耗品管理 ⑨検査室への患者搬送 ⑩血液ガス測定（機器管理）などがある。その他、検査室との連携、回診同行、カンファレンス参加なども行なっている。以上は病棟看護師の理解・協力の下、試行錯誤しながら流れを確立すべく取り組んでいる。

【考察】

血糖測定は、毎朝病棟看護師に対象患者をリストアップしてもらい、人数に応じて調整してもらうよう依頼するなど、事前の打ち合わせが必要になっている。他の検査は毎日あるとは限らないが、この業務は毎日行なっているため、最も看護科との連携を行っている業務とも言える。また、日勤帯での採血は高頻度で依頼されており、アンケートの結果どおりニーズが高いと思われる。血液培養の介助についても、やはり看護師 1 人での実施は難しく、特に病棟看護師が不足している状況での介助は業務支援として有益と思われる。

消耗品・機器管理については、病棟業務開始以前にはわからなかった、病棟での採血管保管状況が判明し、整理を行ったことで採血管の誤りを事前に防止するよう努めることができたと思われる。また、血液ガス装置周辺の管理を頻繁に行うようになったことで、データの送信し忘れなどに早期に対応できたり、試薬残量をこまめに把握できたりするようになった。

総じて、病棟看護師と検査室との連携が不可欠であると思われた。一方で、業務実施時の対応などで病棟看護師に時間を取らせてしまい、かえって負担となってしまうこともあった。

【まとめ】

病棟業務に携わってみて、今まで検査に関わる一連の過程の、ほんの一部しかやっていなかったことが認識できた。全ての過程を含めて行なうことが検査技師の本来の業務であり、業務支援となると思われた。病棟業務の中でも、ベッドサイドでの採血や血液培養介助は病棟ならではの業務であり、医師の診療に直接繋げることのできる取り組みでもあると思われる。今後の医療の多様性に順応するためにも、模索しながら継続していきたい。

連絡先 岩手県立千厩病院 0191-53-2101